

1. 業務運営体制

(1) 名称および所在地

独立行政法人 産業医学総合研究所
〒214-8585神奈川県川崎市多摩区長尾6丁目21-1

(2) 目的

労働者の健康の保持増進及び職業性疾病の病因，診断，予防等に関する総合的な調査研究を行うことにより労働者の健康の確保に資することを目的とする。その推進に際しては，労働基準行政と密接な連携を保ちつつ，行政ニーズに即応した研究を行い，労働基準行政を技術的に支援する。

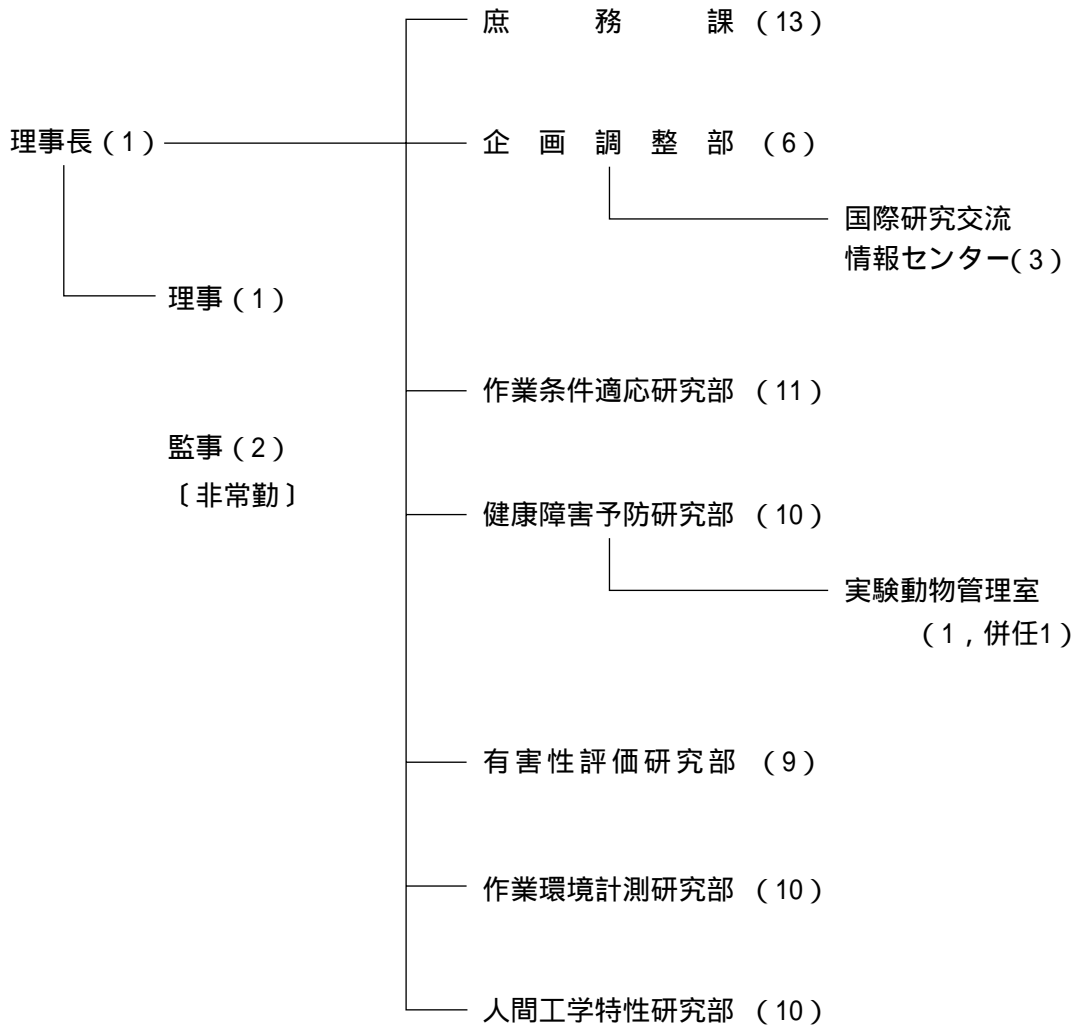
(3) 沿革

-
- | | |
|-------------|--|
| 昭和24年（1949） | 栃木県鬼怒川のけい肺病院と同一敷地内に労働省労働基準局労働衛生課分室として「けい肺試験室」が設立される。 |
| 昭和31年（1956） | 労働省設置法により労働衛生研究所が設置される。組織は庶務課，職業病部第1課，第2課，労働環境部第1課，第2課の2部5課となる。 |
| 昭和32年（1957） | 労働衛生研究所が開所される。職業病部に第3課，第4課，労働環境部に第3課が新設され，2部8課となる。 |
| 昭和35年（1960） | 労働生理部第1課，第2課，労働環境部に第4課が新設され，3部11課となる。 |
| 昭和40年（1965） | 実験中毒部第1課，第2課が新設され4部13課となる。 |
| 昭和45年（1970） | 第63回国会において産業医学総合研究所の創設について附帯決議がなされる。 |
| 昭和47年（1972） | 労働安全衛生法が制定される。 |
| 昭和51年（1976） | 産業医学総合研究所が川崎市多摩区において開所される。組織は庶務課，労働保健研究部，職業病研究部，実験中毒研究部，労働環境研究部の4部1課となる。10月に労働疫学研究部が新設されて，5部1課となる。 |
| 昭和52年（1977） | 人間環境工学部が新設され，6部1課となる。 皇太子殿下行啓 |
| 平成2年（1990） | 天皇陛下行幸 |
| 平成8年（1996） | 産業医学総合研究所20周年記念講演会を開催。 |
| 平成9年（1997） | 企画調整部と5研究部に研究組織を改編。 |
| 平成13年（2001） | 1月6日 厚生労働省の発足とともに，厚生労働省産業医学総合研究所となる。
4月1日 独立行政法人産業医学総合研究所となる。 |
| 平成15年（2003） | 4月1日 図書情報室を国際研究交流情報センターに改組 |
-

(4) 組織

1) 組織図

(平成17年3月31日現在)



() : 人数

2) 6部1課の業務内容

独立行政法人産業医学総合研究所組織規則に定められている庶務課および6研究部の所掌業務は以下のとおり。

部・課	所掌業務
庶務課	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職員の人事，印章の保管，文書，会計，物品及び営繕に関すること。 ・ 前号に掲げるもののほか，研究所の所掌に係る業務で他の所掌に属しないもの。
企画調整部	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究所の所掌に係る調査及び研究の企画，立案及び調整に関すること。 ・ 職業性疾病の原因の調査の調整に関すること。 ・ 国内外における労働衛生関連情報の収集，分析及び提供並びに国際的研究交流及び共同研究の推進に関すること。 ・ 図書の収集，保管及び業績誌の編集並びに広報に関すること。
作業条件適応研究部	<ul style="list-style-type: none"> ・ 労働者の健康状態の評価技術及び健康管理の技術的方法に関する調査及び研究に関すること。 ・ 労働時間，休憩時間その他の作業条件が労働者の健康に及ぼす影響に関する調査及び研究に関すること。 ・ 労働者の身体的諸条件に応じた作業条件の適正化に関する調査及び研究に関すること。 ・ 作業環境における諸条件が労働者に及ぼす生理的及び心理的な影響に関する調査及び研究に関すること。 ・ 労働に伴う精神的負荷が労働者の健康に及ぼす影響に関する調査及び研究に関すること。 ・ 前各号に掲げるもののほか，研究所の所掌に係る調査及び研究に関する業務で他の所掌に属しないものに関すること。
健康障害予防研究部	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職業性疾病の病因及び発生機序に関する調査及び研究に関すること。 ・ 労働者の個人的素因が職業性疾病の発生に及ぼす影響に関する調査及び研究に関すること。 ・ 職業性疾病の早期発見のための指標の開発に関する調査及び研究に関すること。 ・ 実験動物の飼育その他の管理に関すること。
有害性評価研究部	<ul style="list-style-type: none"> ・ 有害性の確定していない因子についての有害性の予測及び評価に関する調査及び研究に関すること。 ・ 職業性疾病についての疫学的調査及び研究に関すること。 ・ 有害因子の人体に対する許容度に関する調査及び研究に関すること。
作業環境計測研究部	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作業環境の測定及びその結果の評価に関する調査及び研究に関すること。 ・ 作業環境中の有害因子の発生の予測に関する調査及び研究に関すること。
人間工学特性研究部	<ul style="list-style-type: none"> ・ 労働者が使用する機械，器具その他の設備の人間工学的な見地からの評価及び標準化に関する調査及び研究に関すること。 ・ 作業環境中の有害因子を除去する技術に関する調査及び研究に関すること。 ・ 労働衛生上必要な保護具の改善に関する調査及び研究に関すること。

2. 役員, 職員等*

*本項は役職員の個人情報保護のため別添として研究所に保管する。

3. 内部進行管理

独立行政法人化に伴い、厚生労働大臣の認可を受けた中期計画（平成13年4月～平成18年3月）と、平成16年度の年度計画を官報及びインターネットにより公表した。また、各種の委員会と作業部会を所内に設置し、業務運営に関わる諸事項を審議・実施した。これらの所内組織により、職員の業務分担を図る等、効率的運営を目指した。また、業務執行に必要な諸規程類について整備を図り、これらに基づく執行を行った。

(1) 所内会議・集会

1) 役員会議

開 催：平成16年4月27日，7月28日，10月18日，および平成17年1月25日。

出 席 者：理事長，理事，および監事。

事務局員：企画調整部長，庶務課長。

2) 部長会議

開 催：平成16年4月9日，5月12日，6月10日，7月7日，9月8日，10月20日，11月24日，12月22日，平成17年1月12日，および3月9日。

出 席 者：理事長，理事，全部長，国際研究交流情報センター長および庶務課長

書 記：企画調整部研究調整官。

3) 業務集会（ビジネスミーティング，BM）

開 催：毎月1回，研究集会後。

出 席 者：理事長，理事，全部長，全研究職員，および庶務課長。

4) 研究集会（テクニカルミーティング，TM）

開 催：毎月1回。

出 席 者：理事長，理事，全部長，全研究職員，科学技術振興事業団委嘱／派遣研究員，客員研究員，および研修生。

開 催 日，講演者，演題等：次頁以降に掲載。

5) 研究部部会

開 催：部毎に時期を定める。

出 席 者：各部長と当該部の研究職員

平成16年度研究集会（テクニカルミーティング，TM）の開催日，講演者名，演題名等

開催日 平成 年月日	講演者名，演題等
16. 4. 28	第277回テクニカルミーティング 座長：平田 衛，会場係：三浦伸彦 1) 毛利一平 「塩ビモノマーへのばく露は，肝血管肉腫だけでなく「肝がん」による死亡リスクをも増大させるか？」 2) 小林健一 「先天性甲状腺機能低下症マウスの内分泌学的特性」 3) 佐々木 毅 「交替制勤務変更が循環器疾患のリスクファクターに及ぼす影響」 4) 前田節雄 「手腕振動障害診断法（温冷覚閾値測定条件）の検討」
5. 12	特別講演 座長：荒記俊一，会場係：鈴木 薫 池田正之（東北大学・京都大学名誉教授，京都工場保健会理事） 「一般住民のカドミウム負荷」
6. 16	第278回テクニカルミーティング 座長：大谷勝己，会場係：久保田 均 1) 久永直見 「日系企業の労働衛生水準向上のための日本からの支援」 2) 山田博朋 「カドミウムによって起こされる遺伝子発現変化とその生物学的効果」 3) 斉藤宏之 「アンケート調査による粉じん作業場の労働衛生管理状況について」 4) 篠原也寸志 「けい藻中の結晶質シリカについて」
7. 21	第279回テクニカルミーティング 座長：小野真理子，会場係：杉本光正 1) 澤田晋一 「わが国の職業性暑熱障害の実態と予防対策の課題」 2) 上野 哲 「長時間タッピングにおける前腕伸筋の筋電図変化」 3) 田井鉄男 「長時間運転手における長時間心電図測定」 4) 奥野 勉 「アーク溶接の青光に対する遮光保護具の遮光能力について」
9. 15	第280回テクニカルミーティング 座長：鈴木 亮，会場係：久保田久代 1) 小川康恭 「尿中8OHdG値の安定性について」 2) 王 瑞生 「ALDH2の遺伝子多型とセロソルブの代謝・健康影響の個人差」 3) 古瀬三也 「防毒マスクの吸湿による破過時間短縮についての新しい考え方」 4) 明星敏彦 「呼吸用保護具の密着性試験方法の評価」
11. 24	第281回テクニカルミーティング 座長：外山みどり，会場係：古瀬三也 1) 福田秀樹 「高年齢労働者の業務上疾病について」 2) 中西良文 「新しいin vitro試験法に対する試験基準について」 3) 菅野誠一郎 「キノリン及び1,4 - ジニトロ - 2 - ニトロベンゼンの分析法」 4) 神山宣彦 「今後の石綿曝露管理と石綿曝露評価の最近の例」
12. 22	第282回テクニカルミーティング 座長：前田節雄，会場係：須田 恵 1) 原谷隆史 「職業性ストレス簡易調査票を用いたストレス評価」 2) 岡 龍雄 「生活行動の時間帯別調査と心拍数・身体活動量・姿勢の長時間記録を併用した調査システムの開発」 3) 高橋正也 「労働者における眠気の関連要因と帰結」 4) 小嶋 純 「グライнда作業による金属粉じん曝露とその対策」

17. 1. 19 第283回テクニカルミーティング
座長：毛利一平，会場係：三木圭一
1) 倉林るみい 「企業の海外危機管理としてのメンタルヘルス対策」
2) 戸谷忠雄 「長繊維クリソタイル改質材料（繊維状シリカゲル，焼成フォーステラ
イト）のラット気管内投与による呼吸器影響」
3) 猿渡雄彦 「多様な化合物群を対象とした変異原性予測の試み」
4) 鷹屋光俊 「労働環境中に存在する難溶解性物質の溶解・表面状態() - 機能性材
料および希土類酸化物の溶解特性 - 」
2. 16 第284回テクニカルミーティング
座長：金田一男，会場係：上野 哲
1) 平田 衛 「中小企業における産業保健活動の推進策」
2) 三枝順三 「電磁場の生殖への影響：マウスの3世代試験」
3) 岩崎健二 「働く人の疲労蓄積度チェックリスト」の過重労働対策における有用
性の検討」
4) 柴田延幸 「可変開口フードによる捕捉速度の制御」
3. 16 第285回テクニカルミーティング
座長：座長：明星敏彦，会場係：斉藤宏之
1) 北村文彦 「有機リン中毒症例の紹介」
2) 安田彰典 「長時間労働と喫煙の重複暴露が免疫機能に及ぼす影響について」
3) 三木圭一 「唾液中クロモグラニンA濃度の生体影響評価指標としての検討」
4) 芹田富美雄 「作業環境中有害要因の二次元可視化システムの開発とその応用」

(2) 内部評価委員会

内閣府総合科学技術会議の「国の研究開発評価に関する大綱的指針」に従い、「独立行政法人産業医学総合研究所評価要綱」を改定し、研究職員の個人業績の評価システムを新たに導入し、個人業績の評価を実施した。重点研究領域特別研究，基盤的研究等について審議する内部評価委員会を平成17年2月1日に開催し、研究所として研究，研究以外の業務の進捗状況，研究者の個人業績等を把握した。内部評価委員会は、理事長，理事，企画調整部長，各研究部長，および庶務課長で構成し，企画調整部が事務局を担当した。

内部評価委員会による評価結果を各部とプロジェクト課題研究代表者にフィードバックし，担当者による有効活用を図る等，研究管理・業務運営に反映させた。

(3) 各種委員会

- | | |
|--------------------------------|-------------------|
| 1) 労働衛生重点研究推進協議会事務局 | 12) 組換えDNA実験安全委員会 |
| 2) 研究倫理審査委員会 | 13) 特許審査会 |
| 3) Industrial Health編集委員会 | 14) 人事審査委員会 |
| 4) 外部評価委員会 | 15) LAN運営委員会 |
| 5) 内部評価委員会 | 16) 高圧ガス液体窒素運営委員会 |
| 6) 受託研究審査委員会 | 17) 動物実験委員会 |
| 7) 防火管理委員会 | 18) 動物実験施設運営委員会 |
| 8) 健康安全委員会 | 19) 連携大学院推進委員会 |
| 9) 衛生委員会 | 20) 産医研ニュース編集委員会 |
| 10) 放射線安全委員会 | 21) 図書情報委員会 |
| 11) ダイオキシン類分析研究に関わる安全管理
委員会 | 22) 年報編集委員会 |

(4) 作業グループ (WG)

-
- | | |
|---|---------------------------------------|
| 1) 研究計画WG：中期目標，中期計画，年度計画，研究課題 | 6) 総務WG：会計基準，庶務，福利厚生，施設，財務，予算 |
| 2) 研究支援・評価WG：研究支援，業績向上，研究評価 | 7) 情報関連WG：情報化，広報，図書，Industrial Health |
| 3) 研究支援・評価WG内研究推進策検討WG | 8) 連携大学院制度WG：連携大学院制度の基盤整備 |
| 4) 行政対応WG：行政情報収集，本省会議関連，行政運営方針，行政連携策提案 | |
| 5) 組織・運営WG：業務方法書，付帯業務，組織，体制，部の名称，英文表記，所内諸規程 | |
-

(5) 法定管理者等

-
- | | |
|------------------|-------------------|
| 1) 放射線取扱主任者 | 5) 衛生管理者 |
| 2) 組換えDNA実験安全主任者 | 6) 防火管理者 |
| 3) RI実験施設運営管理者 | 7) セクシャルハラスメント相談員 |
| 4) 産業医 | |
-

(6) 部長等の担当業務

-
- | | |
|--------------------|-------------------------------|
| 1) 効率的な業務運営体制の確立 | 13) インターネット等による研究成果の発信 |
| 2) 内部進行管理の充実 | 14) 労働衛生研究状況の把握と情報提供 |
| 3) 業務運営の効率化に伴う経費節減 | 15) 講演会，一般公開，見学者受入 |
| 4) 効率的な施設・設備の利用 | 16) 知的財産の活用促進 |
| 5) 労働現場ニーズの把握と業務反映 | 17) 国内外の若手研究者の育成，大学・労働衛生機関の支援 |
| 6) プロジェクト研究 | 18) 研究協力の推進 |
| 7) 基盤的研究 | 19) 運営費交付金以外の収入確保 |
| 8) 災害調査 | 20) 予算，収支及び資金計画 |
| 9) 労働衛生の国内外基準の制改定 | 21) 人事に関する計画 |
| 10) 国内外の科学技術情報の調査 | 22) 施設・設備に関する計画 |
| 11) 外部評価の実施と公表 | |
| 12) 論文・学会発表等の促進 | |
-

(7) 業務監査/会計監査

監査結果報告：年4回，役員会議（監事）。

4. 財 務

平成16年度における独立行政法人産業医学総合研究所の予算額は、厚生労働省所管運営費交付金1,390,655千円，厚生労働省施設整備費補助金419,585千円，受託収入35,621千円，その他の収入7,858千円，および外部研究資金55,388千円で、総額1,909,107千円であった。

(1) 厚生労働省運営費交付金

区 分	平成15年度			平成16年度			対前年度比	
	一般会計	労働保険 特別会計 労災勘定	計	一般会計	労働保険 特別会計 労災勘定	計	増 減額	伸率
	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円	%
人 件 費	355,673	413,930	769,603	358,503	408,712	767,215	2,388	99.7
管理維持費	19,406	150,586	169,992	18,982	150,132	169,114	878	99.5
研 究 費	45,700	411,433	457,133	45,709	408,617	454,326	2,807	99.4
計	420,779	975,949	1,396,728	423,194	967,461	1,390,655	6,073	99.6

(注) 平成13年度の独立行政法人移行に伴い、運営費交付金による予算措置となった。

(2) 厚生労働省施設整備費補助金 (419,585千円)

(3) 受託収入 (35,621千円)

単位：千円)

研究費の提供者、名称、課題 (研究期間)		研究代表者	金 額
環境省地球環境保全等試験研究費：			
内分泌かく乱作用が疑われる化学物質の生殖系・次世代への影響評価に関する研究 (平成13～16年度)		本間健資	23,124
ディーゼル車排出ガスを主因とした局地汚染の改善に関する研究 (平成14～16年度)		小野真理子	1,808
受託研究：			
ノザワ	蛇紋岩 (石綿) 焼成改質材料の生体影響評価 (平成16年度)	神山宣彦	9,000
NTT東日本 首都圏健康 管理センター	職業性ストレス調査票を用いた職場のストレス評価に関する研究 (平成15～16年度)	原谷隆史	1,000
セフト研究所	空気循環式防暑作業服の冷却特性と安全性の研究 (平成16年度)	澤田晋一	689

(4) 外部研究資金 (55,388千円)

単位：千円)

研究費の提供者，名称，課題（研究期間）	研究代表者	金額
厚生労働省厚生労働科学研究費補助金：		
臭素化ダイオキシンに係る労働現場のリスク評価研究(平成14～16年度)	神山宣彦	25,000
作業環境中有害物質濃度の連続測定による二次元可視システムの開発とその応用に関する研究（平成14～16年度）	神山宣彦	5,538
厚生労働省がん研究助成金：		
悪性胸膜中皮腫の診断精度の向上及び治療法に関する研究	森永謙二	12,520
日本学術振興会・科学研究費補助金：		
基盤 A 清掃作業者のダイオキシン曝露による発癌リスク及び生殖障害にかかる歴史的コホート研究（平成14～17年度）	毛利一平	5,330
基盤 C ダイオキシン低濃度曝露による健康影響と遺伝子多型との関連（平成16～18年度）	小川康恭	1,300
基盤 C グリコール誘導体による生殖障害・造血障害とその発生機構に関する研究（平成14～16年度）	王 瑞生	500
若手B 労働者の眠気の疾病休業における役割（平成16～18年度）	高橋正也	800
日本学術振興会・科学技術特別研究員	甲斐田幸佐	1,200
日本学術振興会・外国人特別研究員	D．スミス	1,200
喫煙科学財団：		
たばこ煙粒子の粒径別有機物迅速分析法の開発	明星敏彦	2,000

(5) 謝金収入等 (7,858千円)

1) 謝金収入	6,399千円
2) 施設貸与収入	105千円
3) その他	1,354千円

5. 施設, 設備等

(1) 施設の概要

1) 敷地		22,942 m ²
2) 建物	・ 管理棟（地上2階建て）	1,827 m ²
	・ 研究本館（地上5階地下1階建て）	9,277 m ²
	・ 動物実験施設（地上2階地下1階建て）	2,525 m ²
	・ 音響振動実験施設（地上1階地下1階建て）	391 m ²
	・ 工学実験施設（地上1階建て）	919 m ²
	・ その他	408 m ²
	・ 計	15,347 m ²

(2) 主要施設

1) 図書室

研究所の各種研究業務を情報面からサポートすることを目的とした、図書の収集・閲覧・保管及び業績誌の編集その他産業医学に関する情報の収集・分析並びに広報などの図書情報に関連する業務は、独立行政法人産業医学総合研究所組織規則に基づき、平成15年4月1日からは国際研究交流情報センターにより運営されている。また、平成14年度から施行となった情報公開法に対応し、当所における研究発表業績等の情報発信のための基盤整備にも積極的に取り組んでいる。施設としての図書室には、国内外の新着雑誌、各種レファレンス・参考・マニュアル類を配架し、更に閲覧テーブル及びブラウジングコーナーを備えた“図書閲覧室”と、NDC配列による単行書架や雑誌バックナンバー書架を収めた大規模書庫とがあり、書庫内には複写機も設置されている。また“情報機器室”として、ここに数台のパソコンや全紙プリンター等を設置し、各種CD-ROMデータベース検索、プレゼンテーションデータ作成、更に簡易製本機などの利用が可能となっている。

1. 設 備

・ 面 積	: 276.5m ² (閲覧室52m ² , 書庫224.5m ²)
・ 新着雑誌架	: 8台
・ 閲覧室	: テーブル4席, ブラウジング 4席
・ 図書管理用PC	: 利用者用1台, 管理者用1台
・ 作業用PC	: 6台
・ 複写機	: 2台 (カラー・白黒)
・ タイプライター	: 1台
・ 簡易製本機	: 1台

2. 蔵書 (平成15年度)

・ 単行本	: 9,872冊 (平成16年度は800冊の受入を行った。)
・ 製本雑誌	: 20,278冊 (平成16年度は513冊を製本した。)
・ 購読雑誌	
洋雑誌	: 140誌
和雑誌	: 1誌
・ 寄贈交換誌	
洋雑誌	: 27誌
和雑誌	: 117誌

2) 音響振動実験施設

音響振動実験施設には、音響関係では、低周波音実験室、半無響室、人体振動関係では、閾値測定が可能な全身振動加振器、防振手袋の防振効果測定装置、手腕振動加振器、各種振動障害診断装置、及び、振動・騒音・低周波音分析装置が設置されている。騒音・低周波音の作業者に及ぼす影響としては、よく知られている騒音性難聴だけでなく、心理・生理機能への影響もある。騒音・低周波音による人体影響を科学的に評価するため、被験者実験による心理反応の測定や、高レベルの低周波音へのばく露で誘発される振動などの研究を行っている。振動には、車両操縦者などが受ける全身振動と手持工具の使用などによる手腕振動があり、共に健康へ悪影響を及ぼす有害因子として考えられている。全身振動は脊椎の変形、内臓下垂、消化器障害、腰痛などの、手腕振動は手腕振動障害の原因となるため、労働者の振動による障害の防止のための研究を行っている。そして、音響振動実験施設を用いた研究では、独自

の知見を得るとともに、作業員への振動・騒音・低周波音の影響に関するガイドライン設定のための基準を提供してきている。また、これらの施設・装置を用いた共同研究・受託研究等も可能である。

3) 被験者生活管理室

従来から見られる勤務形態の夜勤・交替制に加え、近年では裁量労働制の導入や情報化、通信機器の発達等により、働く人の活動する時間帯はより複雑化しており、労働者の健康保護の面からも多様化した就業時間が生体に与える影響の客観的評価法を明らかにすることが望まれている。被験者生活管理室では食事、睡眠-覚醒時刻等、同調因子を統制した上で被験者に様々な生活パターンを体験していただき、その生体影響を各種生理指標を測定することにより評価を行っている。一例として夜間覚醒を維持した場合の生体影響をストレス時の生体反応に関係するホルモンである尿中カテコールアミン、コルチゾール排泄量、唾液中コルチゾール濃度の変化から評価を試みている。実験室全体はベッド、トイレを有する1人部屋と、共有空間としてテレビ等の視聴ができる部屋から構成されている。

4) 人工環境室

人工環境室は、屋内で人工的に温度・湿度などの自然気象条件を再現できる装置で、人工気象室と呼ばれることもある。産業医学総合研究所の人工環境室は、二つのばく露チャンパー（A室、B室）と前室および監視室で構成されている。A室（幅2,000mm×奥行2,350mm×高さ3,020mm）は、温度を+5～+40℃、湿度を5%～80%、B室（幅3,350mm×奥行2,350mm×高さ3,020mm）は、温度を-30～+60℃、湿度を30%～90%の範囲でそれぞれ制御できる。B室では、酸素O₂濃度（10%～大気中濃度21%）と二酸化炭素CO₂濃度（大気中濃度0.03%～10%）も制御可能である。また両室とも、床面において最大1500lux以内の蛍光灯による連続調光が可能である。現在までにこの装置を使って、寒冷や暑熱などの作業温熱ストレスが人体に及ぼす影響について、体温調節や循環調節などの自律機能の側面からだけでなく心理的側面や作業パフォーマンスの側面からの総合的な解析を進めている。得られた知見は、寒冷作業や暑熱作業を健康に快適に遂行するための作業基準づくりの基盤資料として活用している。今後取り組む研究課題として、高齢労働者のための温熱作業指針の提案、防護服（具）着用による温熱負担評価や保温性能評価の標準化の検討、温度のみならず湿度・気流や騒音・振動、照明などの他の物理的環境因子との複合曝露の影響評価などを予定している。

(3) 大型施設・設備（平成16年度購入分）

携帯型覚醒度評価装置
ヘッド・スペース・サンプラー
HPLCシステム
ダイオードアレイ検出器
レーザー粒径解析・ゼータ電位測定計
ガスクロマトグラフ分析システム
呼吸シミュレータ
多軸座席振動特性測定システム
多軸フォース測定システム
多用途生体现象分析システム
防暑防寒服性能評価システム（サーマルマネキン）
携帯型心電図計（5台）
キセノンランプ500W光源装置
スキャナータイプ画像解析装置
誘発電位・筋電図検査装置
粉体試料加熱注入装置
深部用血流量測定装置

(4) 研究施設等外部貸与制度

研究所では，労働衛生・産業医学研究のために研究所が保有する研究用施設・機器の有効活用を図るべく，それらを外部の研究者に貸与（有償）する制度を平成14年度に設けた。貸与対象施設・機器を下記リストに示した。本制度の利用に関する問い合わせ先は，企画調整部（info@nih.go.jp）である。

1. 低周波音実験室
2. 半無響室
3. 全身振動実験施設（A臥位鉛直，B臥位水平，C鉛直）
4. 手腕振動実験施設
5. 局所排気装置実験施設
6. 溶接口ポット
7. 有機溶剤吸入曝露実験装置
8. 粉じん吸入曝露実験装置
9. ダイオキシン類測定装置
10. 電子顕微鏡（走査型分析電子顕微鏡，透過型分析電子顕微鏡）
11. 人工気象室
12. 被験者生活実験施設
13. 低温（生化学）実験室
14. フローサイトメーター
15. X線分析室（X線回折装置，蛍光X線装置）
16. 紫外線細胞照射装置
17. CASA（コンピュータ画像解析精子分析器）
18. 水平トラバース
19. 電子顕微鏡用試料自動作成装置一式
20. ISO 10819に準拠した防振手袋の振動伝達率測定システム
21. モーションコントローラ制御システム
22. ISO 7096に準拠した座席振動伝達測定システム
23. 12軸全身振動時系列分析システム
24. モーションシミュレータ
25. 振動サンプリング装置
26. 汎用水銀分析装置
27. ガス測定システム